

芭蕉翁記念館だより

◆手紙のひと 芭蕉
芭蕉さんは、江戸時代の作家のなかでも特に多くの手紙を残したことで知られ、現在までに200通以上の手紙が伝わっています。芭蕉さんとともに「元禄の三大家」と呼ばれている井原西鶴・近松門左衛門はというと、西鶴の手紙は7通ほど、近松の手紙は10通ほどしか伝わっていませんので、芭蕉さんの200通以上という数字は驚くべきものです。

ここまで多くの手紙が伝わっている理由は、ひとつには芭蕉さんが筆まめだったからでしょうが、もうひとつには、芭蕉さんから手紙をもらった相手が大切に保管してくれていたからでしょう。芭蕉さんからの手紙だからとっておきたい、大切にしたいと思われていたということです。

芭蕉さんの手紙を読むと、俳句の指導だけでなく、相手の仕事のことや家族のこと、使用人のことなどさまざまなことが書かれており、相手を気遣うこまやかな配慮がうかがえます。そうした芭蕉さんだからこそ、たくさんの人に大切にされてきたのでしょう。

【問い合わせ】
○文化振興課 ☎ 22-9621 FAX 22-9619
○芭蕉翁記念館 ☎ 21-2219

◆企画展「読みたい！芭蕉さんの文字」開催中
9月10日(日)まで
◆第77回芭蕉祭特別展「手紙のひと 芭蕉」
9月15日(金)～12月24日(日)
午後1時30分～ ※要入館料



『絵入おくの細道』(伊賀市蔵)より特別展で公開予定

伊賀の歴史余話 31

伊賀の偽文書

市内で歴史資料の調査をしていると、まれに記述や筆跡、紙質に不可解な点のある古文書に出会います。このような時に頭をよぎるのが、伊賀で密かに作られた偽文書「まるまん文書」の存在です。

偽文書は、家柄や土地柄に権威を付けるため、時代を越えて全国各地で作られました。明治期の伊賀で作られたとされるまるまん文書は、その存在の有無を含め、謎に包まれていました。しかし、近年になって約80点におよぶ文書が発見され、その特徴が明らかになりました。

まるまん文書が描くのは、地域の来歴や寺社の由緒です。「吾妻鏡」などの実在する歴史書からの引用を騙り、式部塚(喰代)や兼好塚(種生)などの各地に残る伝承を組み込むことで、どこかで聞いた話という信憑性を補いながら、虚構の歴史を作り上げています。

その最大の特徴は、文書が「中出清閑坊博霞」なる人物によって書かれていることです。もちろん架空の人物です。清閑坊は、古くから伝わった

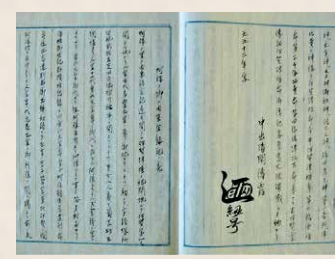
文書が水難で破損したため、改めて書写したと、文中で文書作成の経緯を説明しています。しかし、これは偽文書を作る際の常套手段です。書写ならば紙質が新しいことへの疑問は消え、記された内容自体は古くから伝えられたと主張できるのです。

まるまん文書には、資料価値を高めるための表装、年代を古くみせるための古色を施した痕跡も見られます。これらの文書が、どれほど地域に流布したのかは不明ですが、実際にまるまん文書を書写した資料も確認されています。案外ひっそりと、しかし確実に地域の歴史に浸透しているのかもしれない。

文化財課歴史資料係
☎/FAX 41・2271



▲まるまん文書 (伊山文庫蔵)



◀書写されたまるまん文書 (青山公民館旧蔵)

明日に向かって ～差別をなくしていくために～

自身の人権意識を監査してみる —監査委員事務局—

人権について考えるコラムです。

監査とは、ある事柄に対して、守るべき法令や規定などの基準に照らして、業務や成果物がそれらに則っているかどうかを確かめ、その証拠に基づいて、監査対象の有効性を合理的に保障することとされています。

このことを、人権意識に置き換えて考えてみると、人権が尊重される社会をめざすための取り組みを実践するために守るべき法令は、日本国憲法をはじめ、さまざまな分野に張り巡らされた国内法、世界人権宣言や人種差別撤廃条約などの国際条約です。

これらの法令などは、先人たちが少しでも暮らしやすい社会の実現をめざして作られた苦勞のたまものです。現在さまざまな差別が社会問題として取り上げられている中、法令の理解を含めた認知度を上げるような取り組みが求められています。

世の中で、毎日のように起こるさまざまな事件、

また自分自身の日々の行動をその基準のフィルターを通して考え振り返ることが、身近な家族や近い仲間の中に人権を尊重する意識を芽生えさせ、少しずつその輪が広がっていくと思います。

家庭での会話の一コマで、小学生の子どもが、外国にルーツのある友達が話せる言葉(外国語)を「変な言葉」と表現したときには、「自分たちと違うタイプの言葉やね。だけど世界にはいろんな国や人種があるから、違いがあっても当たり前だし、認め合っていないとね」と絶妙のタイミングと優しさをもって伝えられる感覚と、そんなやりとりができる関係を育てていきたいと思えます。

人権感覚のアンテナの感度を良好に保つ工夫を忘れず人権が尊重され、個人が自由に暮らせることが保障される社会の実現のために、小さな試みですが自らの人権監査を実践したいと思います。

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ

IGAMONO セレクション No.41

【問い合わせ】 商工労働課 ☎ 22-9669 FAX 22-9695

市内で自家栽培しているガーデン・ハックルベリーは、ナス科の一年草(野菜)です。

1粒ずつ手摘みした完熟の実に甜菜糖を加え、水を一切入れず煮詰めて作るコンフィチュールは、トロツとした濃厚さが特徴で、黒みがかった濃紫色になります。また、添加物やクエン酸を使わず、穏やかな酸味をつけるため南高梅を使っています。ビタミンAがブルーベリーの4倍以上、アントシアニンは約3倍以上といわれています。

パンにバターと一緒に塗るとよく合います。ぜひお試しください。



コンフィチュール ガーデン・ハックルベリー



メリ樹～Meriju～ 高濃 みつ子さん

2014年にペイルブルーの小さなお店『メリ樹』を平田にオープンしました。メリ樹(Meriju)という名前は、店主(母)の名前の頭文字Mと娘の名前eriを組み合わせ、樹は樹木のように(父のように)どっしりとしたお店になるようにとの願いを込めています。また、当店のラベルは、木苺が日本みつばちの力を借りて受粉して実る物語を表現しており、伊

賀の自然の豊かさをアピールしています。家族3人で栽培・製造・販売と分担し、できるだけ農薬を使わずに自家栽培したガーデン・ハックルベリーや木苺、ローゼル、スモモ、安納芋などを用いて、無添加でオリジナルブレンドのコンフィチュールやヨーグルトソースを製造・販売しています。

